

琉球大学学術リポジトリ

留学生対象の日本史の授業について

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学グローバル教育支援機構国際教育センター 公開日: 2022-09-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 香代子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019445

留学生対象の日本史の授業について

佐々木 香代子

1. はじめに

琉球大学国際教育センターでは、留学生が日本の文化だけでなく、日本の歴史を学ぶことによって、日本についての理解を深めることを目的に、2017年度に、中上級レベルの留学生に対し、日本語による日本の歴史の授業を開講した¹⁾。この授業を計画した段階では非常勤講師を採用する予定だったが、共通教育科目の新規開講科目に非常勤講師を採用することはできない旨の通知があり、大学の学部では歴史専攻であった筆者が授業を担当することになった。

教養レベルの日本史の授業なら、と気軽に引き受けたのだが、通年でどのように授業を組み立てていくか具体的に検討し始めると、戸惑うことが多かった。まず、中学校と高校で使用している日本史の教科書を取り寄せて内容を確認してみると、その後の研究の進展に伴い、筆者が学んだ頃の内容と視点に異なりがあることに気づいた。さらに、留学生を対象とすることで、母国で日本の歴史を学んだことがある学習者から全く学んだことがない学習者まで日本の歴史理解にバラエティーがあり、何を教えて何を切り捨てるか取捨選択をする必要があるだけでなく、どの程度まで内容を掘り下げるかという問題にも直面した。

本稿は、この数年間、留学生を対象に行った「日本の歴史」の試行錯誤の記録である。

2. 授業の概要

留学生対象の「日本の歴史」は、毎週金曜日の2限目に、前期（日本の歴史1）、後期（日本の歴史2）通年で、提供している。

2017年度に開講したが、翌2018年度は筆者がサバティカルを取得したため、不開講とし、サバティカルから復帰した2019年度から再開した。

シラバスは、NHK 高校講座「日本史」や『ドラえもんの社会科おもしろ攻略：日本の歴史』1～2巻を参考に、テーマの設定と配列を行った。前期の「日本の歴史1」は、旧石器時代から室町時代（「戦国時代」の始まりまで）、後期の「日本の歴史2」は、戦国時代からアジア・太平洋戦争勃発までを範囲とした²⁾。

2.1 シラバスの決定

シラバスを決定する際の方針としたのは、今まで日本史を学んだことがない留学生に、日本の歴史の概要を理解してもらうための最低限の内容を選択し、配列することだった。そこで、①日本の歴史の流れをたどるために最低限必要なことは何か？を考え、選択す

る作業を行ったのだが、その際に、②筆者自身が学んだ日本の歴史との変更点を理解し反映させることも、併せて行わなければならなかった。2022年現在の内容と筆者が学んだ歴史との主な変更点は、下記の通りである。

表1 筆者が学んだ内容とは異なる現在の内容

提供科目名	筆者が学んだ内容	現在の内容
日本の歴史1	縄文時代は、縄文土器を作り、食べ物を煮炊きしていたものの、狩猟や採集に頼る社会だった。	縄文時代には、植物の栽培や食べ物の加工・貯蔵、他地域との交易が行われており、「原始的な」社会ではなかった。
日本の歴史1	縄文時代は平等な社会だった。	縄文時代にも一定の格差はあり、必ずしも平等な社会ではなかった。
日本の歴史1	水田稲作は弥生時代～。	水田稲作は、縄文時代晩期に始まっていた。
日本の歴史1	弥生時代は、B.C.3世紀頃～。	弥生時代は、B.C.4世紀または5世紀頃～。
日本の歴史1	中大兄皇子と中臣鎌足による蘇我入鹿殺害と、その後の改革をまとめて「大化の改新」と呼ぶ。	中大兄皇子と中臣鎌足による蘇我入鹿殺害はクーデターで、「乙巳の変」と呼ぶ。その後、一連の改革（一般には「大化の改新」と呼ばれている改革）があった。
日本の歴史1	「日本」という国号についての説明は、なし。	「日本」という国号が用いられるようになったのは、大宝律令制定以降。
日本の歴史1	聖徳太子	厩戸皇子または厩戸王（括弧書きで「聖徳太子」）。
日本の歴史1	聖徳太子は、官位12階を制定し、遣隋使を派遣した。	厩戸王（皇子）個人の事績ではなく、推古政権が行ったこと。厩戸王（皇子）は、蘇我馬子とともに推古政権の中樞を担っていた。
日本の歴史1	蒙古軍は2回とも嵐に遭って撤退した。	蒙古軍は1回目は冬の季節風を避けるため自発的に撤退、2回目は嵐に遭った可能性があるが、嵐による被害は誇張されている可能性がある。
日本の歴史1	一揆を起こす（「一揆」を武装蜂起とみなす）。	一揆を結ぶ（「一揆」とは、目的を実現させるために神仏に誓約して一致団結すること）。
日本の歴史1	「徳政碑文」は、「正長の土一揆」の成果を刻んだもの。	「徳政碑文」は、「徳政」の宣言。
日本の歴史2	織田信長は鉄砲の弱点を補うために三段撃ちで武田軍に勝った。	織田信長は大量の鉄砲を効果的に使用して、武田軍に勝った（所謂「三段撃ち」はなかった）。
日本の歴史2	豊臣秀吉は刀狩りによって百姓から武器を取り上げ、兵農分離を進めた。	豊臣秀吉は刀狩り令を出したが、思うように百姓から武器を取り上げることはできなかった。
日本の歴史2	「関ヶ原の戦い」は、「天下分け目の戦い」。	「関ヶ原の戦い」は、豊臣政権内部の争い。戦い後も、豊臣氏は、権威を保ち続けていた。

留学生対象の日本史の授業について
(佐々木 香代子)

日本の歴史 2	江戸時代は長崎の出島でのみオランダと中国との交易を許し、「鎖国」した。	「鎖国」とは言っても、完全に遮断したわけではなく、長崎の他に、松代藩、対馬藩、薩摩藩を通じて、海外に向けて4つの窓口があった。
日本の歴史 2	江戸時代の身分制度は「士農工商」。最下層に、えた・非人という身分があった。	武士と百姓・町人。これとは別に、えた・非人（被差別民）がいた。なお、百姓＝農民ではない。
日本の歴史 2	徳川綱吉は「生類憐れみの令」を出し、犬を過剰に保護したため、犬公方と呼ばれた。	徳川綱吉は生類憐れみに関する法令を次々に出し、戦国時代以来の気風を取り除き、命を大切にするなど人々に新たな価値観を持たせようとした。
日本の歴史 2	田沼意次は商業を保護したため、利権を獲得するためにワイロが横行するようになった。	田沼意次は商人の経済力を利用して社会を豊かにする重商主義政策を採った（田沼意次に対するポジティブな評価）。
日本の歴史 2	浦賀に現れた黒船に、幕府は驚き慌てた。	4つの窓口を通して、幕府は黒船の来航を予測していた。
日本の歴史 2	第二次世界大戦	太平洋戦争, アジア・太平洋戦争, 大東亜戦争のいずれかが用いられている。

上記内容の変更点を踏まえつつ、シラバスを表2のように定めた。

表2 前期・後期のシラバス

	日本の歴史1 (前期)	日本の歴史2 (後期)
1	日本の歴史概観	戦国時代の始まりと戦国大名
2	日本の歴史の始まりと縄文時代	鉄砲とキリスト教の伝来
3	弥生時代の日本と大陸との交流	全国統一と信長, 秀吉
4	ヤマト王権と古墳時代	関ヶ原の戦いと江戸幕府の始まり
5	仏教の伝来と聖徳太子 (厩戸皇子)	キリスト教の禁止と鎖国の始まり
6	天皇中心の国づくりと律令政治	生類憐れみの令と元禄時代
7	平城京と奈良の大仏	江戸時代の政治改革
8	平安京遷都と怨霊	黒船来航と開国
9	摂関政治と国風文化	安政の大獄と尊皇攘夷
10	源氏と平氏	倒幕と戊辰戦争
11	平氏の滅亡と鎌倉幕府の成立	明治維新
12	執権政治と鎌倉時代の仏教	明治政府の領土拡張政策
13	蒙古襲来と鎌倉幕府の滅亡	大正デモクラシーと治安維持法の制定
14	室町幕府と応仁の乱, 戦国時代の始まり	世界恐慌と孤立する日本
15	総復習	総復習

2.2 授業内容の難易度

授業内容が詳しすぎると、日本の歴史を初めて学ぶ留学生には情報過多になり、「難しい」という印象を与える可能性がある。が、内容をシンプルにすると、既習の留学生には「簡単すぎる」「その程度のことは既に知っていることばかりで、つまらない」ということになり、より深い知識を求める学習者のニーズを満たすことができない。日本人の学生なら、中学、高校で日本史を一通り学んでいるため（どれだけ覚えているかは別として）、それを前提に授業を行うことが可能であるが、留学生の場合は、そういった前提の下で授業を行うことができない。そこが、留学生を対象に「日本の歴史」という授業を提供する上での難しさである。

そこで、NHK 高校講座「日本史」や『ドラえもんの社会科おもしろ攻略：日本の歴史』1～2巻の内容を参考に、まず、日本の歴史の大まかな流れを理解するためのベースとなる内容を定めた。そして、既習者のニーズを満たすため、①歴史研究の進展を踏まえた新しい内容・視点をレジュメに反映させる。②レジュメの最後に「コラム」を設け、レジュメ本文に書くには詳しすぎると思われる事柄、まだ学説として定着していないが最近注目されている学説、「言い伝え」として残っている事柄などを紹介することにした。が、本文とは別仕立てであっても、レジュメの本文に続いて「コラム」があると、初めて日本の歴史を学ぶ学習者の中には「コラム」の記事に書かれている内容も覚えようとして負担になる様子が見受けられたため、「コラム」は、2020年度から、レジュメからは切り離して、冊子にまとめて提供することにした。受講後のアンケートによると、この冊子「コラム」は、興味を感じたトピックのみ読んでいると答える学習者もいるが、ほとんどの学習者が全部あるいはほとんど読んでいると答えており、利用されているようだ。

2.3 授業の提供方法

2.3.1 予習を重視した授業の提供

篠ヶ谷（2008）は、中学生を対象とした歴史の授業において、授業前に教科書を読んで予習をするグループ、予習はせず復習だけするグループに分け、授業で説明される（教科書には書かれていない）背景因果の理解度の相違について実験を行っている。それによると、意味理解志向の強い学習者は、予習で得た知識を基に歴史的な出来事背景因果に注目することができ、その結果、理解を深めることができるが、意味理解指向の強い学習者であっても復習のみでは背景因果に注目することができず、理解が深まらないという結果を得た。この結果について、篠ヶ谷（2008）は、教科書を読む予習が「授業の先行オーガナイザーとして機能する」、つまり、「教科書を読み、『どのような事件が起こったか』などの知識を先に得ておくことで、授業ではその背景因果に注意を向ける

ことができ、そうした理解が促進された」(p.263)と分析している。この他に、予習が授業への興味を下げないこと(篠ヶ谷(2008))、予習時に授業者が「なぜ」に始まる質問を提示し、その質問に対して学習者に解答を作成させることにより、学習者が自分の知識状態を把握し、授業における目標認識を促進させることができる(篠ヶ谷(2011,363頁))とも述べている。

篠ヶ谷(2008,2011)は、歴史教育において重要視されている「歴史の背景因果」理解という観点から予習の重要性を指摘しているわけだが、日本語に関して何らかの配慮が必要な留学生においては、「歴史の背景因果」理解という観点だけでなく、日本語理解という観点からも、予習の重要性は大きいと考えられる。そこで、筆者は、授業を提供するにあたって、予習(=事前学習)を前提にすることにした。具体的には、

①レジュメと語彙シート、キーワードを、授業を行う前の週に配布し(双方向オンラインの授業以降は、teams上にアップし)、事前学習を課すことで、レジュメにおいても講義においても、日常生活では耳にすることが少ない語彙(例えば、「発掘する」、「埋葬する」、「政変」、「遺跡」など)、人名や地名などの語彙を理解した上で、授業に臨めるようにした。

加えて、篠ヶ谷(2011)の知見を基に、

②2020年度～、レジュメに「今日の課題」という欄を設け、レジュメおよび授業のポイントを予め提示することにより、授業のどの部分を主に聞き取り理解しなければならないかを理解した上で授業に臨んでもらうようにした。さらに、この「今日の課題」は、「授業内の情報と既知の情報を比較し、統合」(篠ヶ谷(2011,p.364)させるため、別途、課題記入シートに記入し、授業後に提出してもらうことにした。

2.3.2 授業を提供する上でのその他の工夫

上述したような予習(事前学習)の他に、下記の工夫を行った。

1) レジュメの工夫

①視覚資料の挿入

レジュメに、できるだけ写真や絵、グラフなど視覚資料を挿入して、説明文が理解しやすいようにした。

②西暦の使用

元号はたびたび変わるので、日本人でも覚えるのが難しい上に、その出来事が自分の国ではいつ頃に起こったことかが推測できない。歴史をタテだけでなく、ヨコからも見る習慣をつけてもらうため、元号は使用せず、皆が共有できる西暦を使用することにした。

③地名、人名の蛍光マーカー

聞いたことがないような人の名前や地名が出てくるため、それが人名なのか地名なのか、ふだん使わないことばなのか区別がつかない。そこで、人名と地名には蛍光マーカーをつけ、それが人名あるいは地名であることが一目でわかるようにした。日本だけでなく、日本以外の地名、人名にも、同様に蛍光マーカー（日本および日本人とは色違い）をつけて、それが日本から見て外国の地名、人名であることがわかるようにした。なお、漢字表記の地名・人名、ふだん使わない漢字語彙にはルビをふった。

2) レジュメ以外の工夫

①授業の工夫

授業はパワーポイントを使用し、写真や絵、グラフを見せながら説明し、文字を介さず、視覚的に理解を深めるようにした。

②シラバスの工夫

シラバスのタイトルに副題を設け、タイトルを見ると、その授業の内容がある程度予測できるようにした（2021年度～）。例えば、前期の第1回目の授業のタイトルは、「日本の歴史の始まりと縄文時代」であるが、「1万年以上続いたコメ作り前の時代」という副題が設けてある。「縄文時代」とは何かがわからなくても、この副題を読めば、「縄文時代」がどのくらい長く続いたのか、どんな時代だったのか（人々がコメを作り始める前の時代だった）ということがわかる。こうした副題を設けることにより、①この講義ではどんなことが学べるのかが予測でき、履修登録の判断材料になる、②（事前学習として授業の前の週にレジュメを配布するので、レジュメを読んでおけば次週の授業内容の概要はわかるのだが、）授業前にこの授業でどんなことを学ぶのかというイメージを提示することができる。

③課題の工夫：ポスター発表

単に日本の歴史を通時的に学ぶのではなく、日本での出来事が自分の国ではいつ頃にあたるのかということ意識してもらうために（＝共時的な理解を促すために）、日本の〇〇時代（または、日本で〇〇という事件が起こった時、〇〇という人が活躍していた時）に自分の国では……というタイトルで、自分の国の社会状況や、出来事、活躍していた人について調べ、A4版2枚程度にまとめてポスターを作成するという課題を設けた。学習者が作成したポスターは掲示して（双方向オンラインの授業では、teams上で共有して）、自分の国、他の国を問わず、他の学習者と歴史についての知識の共有ができるようにした。

3. 受講生からのフィードバックによる授業改善

①地名、人名の削減

留学生対象の日本史の授業について
(佐々木 香代子)

日本の歴史を母国である程度学んだ学習者にとっても、人の名前を覚えるのが難しいというフィードバックがあり、それ以来、「事柄を説明するのに、人名は必要か？」を考え、人名がなくても説明可能なものは人名を省略し、繰り返し登場する人物やその時代の代表的な人物に絞って人名を登場させることにした。同様に、地名についても、地図を示した上で「今の〇〇県」というふう置き換えて説明することにより、学習上の負担を軽くするようにした。

②授業中の講義内容に関する質問の反映

授業中での学習者からの質問をメモにとっておき、次年度のレジュメやパワーポイント（またはコラム）に反映している。なお、授業中の口頭での返答だけでは学習者の理解が不十分に感じた時は、補足のパワーポイントを作成して翌週に提示した上で、teams にアップすることにした。

4. おわりに

「はじめに」でも述べたように、この授業を履修する留学生は、日本の歴史を母国で学んだことがある学習者から全く学んだことがない学習者まで、既有知識に大きな違いがある。が、全く学んだことがない学習者ではあっても、現役の大学生であることから、学ぶ事柄が量的にも質的にも貧弱なものであれば、彼（女）らの知的好奇心を満たすことはできない。そのためには、何より、授業者である筆者自身が多くを知っておく必要があり、歴史研究の進展状況に目を配り、最新の研究成果の把握に努めている。こうして得た知識を授業においてどのようにかみ砕いて提示・説明するかが、授業を行う上で筆者の課題である。

本文では触れなかったが、歴史というと、歴史上の有名人や事件に焦点があたりがちであるが、その時代がどのような時代であったかを理解するには、歴史書などには名前が載らない普通の人々がどのように生活していたかということも忘れてはならない。授業では、歴史上活躍した人々だけでなく、名もない人々の暮らしにも注目することによって、その時代がどのような時代であったかを想像し検討できるよう心がけている。

この授業は「日本の歴史」という授業であるが、学習者には単に日本についてタテ方向（通時的）にのみ学ぶのではなく、近隣地域などヨコの関係も視野に入れて（共時的にも）学んでほしいと考えている。日本から遠く離れた地域出身の学習者にしても、直接には日本との関係はなくても、その時代に自分の国はどうだったのだろうか？自分の国では、日本で起こったような出来事があったのだろうか？など、常に、自分の出身国・地域について考えながら、授業に臨んでほしいと思っている³⁾。単に「日本について学んでいる」姿勢で学ぶよりも、自分の国を意識しながら学ぶ方が様々な疑問が湧いて出てくるのではないかと（日本の文化について学ぶ授業もそうだが、）この授業が「日本

の歴史」を学ぶだけに留まらず、学習者に自国の歴史について考える機会を提供する授業になることを願っている。

註：

- 1) センターでは、「日本事情」「沖縄事情」という文化科目を以前から提供していたが、新たに歴史科目として、「日本の歴史」「沖縄の歴史」を提供することになった。
- 2) 現代史については、センター提供の他の科目「沖縄の歴史」で、ある程度満たしているため、範囲から除外している。
- 3) ポスター発表という課題はそのための一つの手段である。授業においても、その時代が世界的にはどんな時代だったかについても言及するよう心がけている。

参考・引用文献

NHK 高校講座日本史

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/nihonshi/index.html>

岡本隆司（2021）『中国史とつなげて学ぶ日本全史』東洋経済新報社。

篠ヶ谷圭太（2008）「予習が授業理解に与える影響とそのプロセスの検討：学習観の個人差に注目して」『教育心理学研究』56, 256–267 頁。

篠ヶ谷圭太（2011）「学習を方向づける予習活動の検討：質問に対する解答作成と自信度評定に着目して」『教育心理学研究』59, 355–366 頁。

高橋秀樹,三谷芳幸,村瀬信一（2016）『ここまで変わった日本史教科書』吉川弘文館。

『中公ムック歴史と人物5：ここまで変わった！日本の歴史24の最新説』（2021）中央公論新社。

『ドラえものの社会科おもしろ攻略：日本の歴史』1～2巻（2013）小学館。

（佐々木香代子—琉球大学 国際教育センター）